

特集：2015年「音の日」

第22回「音の日」のイベントと 第20回「音の匠」顕彰について

「音の日」実行委員長 森 芳久

「音」の文化について多くの人々に認識していただき、またオーディオ文化と産業の発展のために制定された12月6日「音の日」が、昨年第22回を迎え、おかげさまでこの世界では広く知られるようになってまいりました。これもひとえに関係各位のご協力の賜と改めて感謝申し上げます。

昨年の「音の日」イベントは12月4日（12月6日が日曜日のため、4日の週日に繰り上げました）、一昨年同様に目黒雅叙園にて開催いたしました。



写真1. 第22回「音の日」イベント

この「音の日」の最も大きなイベントであり、皆様の関心の高い「音の匠」の顕彰も昨年は第20回と節目の年を迎えました。昨年度は奈良県立医科大学医学部 名誉教授、理学博士・農学博士 大崎 茂芳（おおさき しげよし）氏を第20回「音の匠」として顕彰いたしました。クモの糸によるヴァイオリン弦を作成しその実用化研究に努め、音の文化に大きな貢献をされたことが顕彰理由です。

大崎氏は、生体の分泌する代表的なタンパク質としてクモの糸の物理化学的研究に長年取り組まれ、この未知の世界で数々の発見をされ、それらを多くの著書や論文を発表されています。そして、その研究の中でクモの糸でヴァイオリンの弦を作れないかとの発想が生まれ、幾多の研究を重ね、ついにクモの糸によるヴァイオリンの弦を作ることに成功されました。2012年4月に

米国の物理学会誌「フィジカル・レビュー・レターズ」に発表されたクモの糸の弦の独特の音色とユニークな構造に関する論文も世界から絶賛を受けています。



写真 2. 日本オーディオ協会 校條 亮治会長より顕彰楯を受ける第 20 回「音の匠」大崎 茂芳氏



写真 3. 顕彰式後の集合写真、左から日本オーディオ協会小川 理子副会長、電波新聞社 平井 哲夫社長、「音の匠」大崎 茂芳氏、日本オーディオ協会 校條 亮治会長

顕彰式の後には開催された「クモの糸でヴァイオリンは弾けるのか」と題した特別講演では、普段私たちには馴染みのないクモの生態やクモの糸の採集の苦労話など興味深い話に加え、氏のユーモア溢れる話術に会場はすっかりクモの世界に引き込まれました。講演の冒頭に、大崎氏はクモの糸に模した紙テープをいきなり客席に投げつけ、全員の度肝を抜くみごとな演出に聴衆は完全にクモの巣に捕らわれた状態となりました。そして講演の結びには、大崎氏自らがクモの糸のヴァイオリンで「アメージング・グレイス」を演奏されました。

氏はこのクモの糸でヴァイオリンの弦を作ることを思い立ってから初めてヴァイオリンのレッスンを受けられたとのこと。クモの糸のヴァイオリンは会場いっぱいに大きな音を奏でてくれました。



写真 4. 講演中の大崎 茂芳氏
洒落なお話と豊富な資料による講演は会場をクモの世界に変えました



写真 5. クモの糸のヴァイオリン弦開発のために氏自らが習いはじめた「アメージング・グレイス」を披露していただきました

続いて、新進気鋭のヴァイオリニスト鶴野 紘之（つるの ひろゆき）氏がクモの糸のヴァイオリンを演奏し、音楽大学在学中ながら既にプロとして活躍されている飯守 朝子（いいもり あさこ）氏のご自分のヴァイオリンを用いた二重奏で、華麗な演奏を披露していただきました。曲目はバッハの「G線上のアリア」、「2つのヴァイオリンのための協奏曲（第一楽章）」そして時節柄クリスマス・ソングの「もろびとこぞりて」の3曲で、いずれも飯守 朝子氏が二重奏のために編曲されたものです。クモの糸のヴァイオリンはとても力強い音で会場を魅了し、またオリジナルのヴァイオリンとも見事な調和をみせてくれました。

後日、来場者の方々から「クモの糸がこんな美しい音を出すのに感動した」、「とても朗々とした音でびっくりした」、「力強い音だった」、「自然の驚異に崇高なものを感じた」など、多くの感想が寄せられました。



写真 6. クモの糸のヴァイオリンを演奏する鶴野 紘之氏（左）と、飯守 朝子氏（右）。お二人の息の合った演奏に聴衆は魅了されました

このクモの糸によるヴァイオリンの弦についての詳細は、大崎 茂芳氏より次記事に特別寄稿をいただきましたので、是非そちらもお読みください。

また、一昨年 20 周年記念として企画開催した「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」がとても好評でしたので、昨年度も引き続き第 2 回を開催いたしました。この件につきましては、本号に「音の日」実行副委員長 穴澤 健明氏の紹介記事がありますのでそちらをご覧ください。

そして、昨年も日本オーディオ協会、日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本レコード協会、演奏者権利処理合同機構 MPN 合同の「音の日」のつどいパーティーが盛大に開催されました。



写真 7. 「音の日」のつどいパーティーで「音の匠」大崎 茂芳氏、ヴァイオリニスト 飯守 朝子氏と鶴野 紘之氏のご紹介



写真 8. 盛り上がりを見せた「音の日」つどいパーティー

ここでは、主催者の挨拶そして来賓のご挨拶、本日行われましたプロ録音賞受賞者の紹介、また「音の匠」の紹介などがあり、乾杯に続き会員やご来賓の皆様との活発な交流が行われ、今年のオーディオ界の大きなイベントが無事終了いたしました。

「音の日」実行委員長として関係各位の皆様、また当日お集まりいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

また「音の匠」特別講演会におきましてボランティアでクモの糸によるヴァイオリンを演奏していただきました鶴野 紘之氏、そのヴァイオリンに合わせて二重奏をしていただきました飯守 朝子氏に改めてここに謝意を表します。本当にありがとうございました。

下記にお二人のプロフィールをご紹介します。お二人とも数々のコンクールの入賞歴を持つ素晴らしいヴァイオリニストです。演奏会も開かれていますので、皆様もチャンスがありましたら是非お聴きください。

鶴野 紘之氏（プロフィール）

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部を経て、2015年3月同大学修士課程修了。これまで玉井菜採、堀正文、ジェラルド・プーレ、オレグ・クリサ、ピエール・アモイヤル各氏に師事。フォーレ、サン＝サーンスなどをレパートリーとする。活動はソロのみ

ならず室内楽、在京プロオーケストラのエキストラなど多岐に渡り、後進の指導にも当たる。(公式ウェブサイト: <http://www.hiroyukitsuruno.com>)

飯守 朝子氏 (プロフィール)

第 10 回ルーマニア国際音楽コンクール優勝、コンスタンツァ国立歌劇場管弦楽団と共演。第 18 回 KOBE 国際音楽コンクール優勝。第 60 回東京国際芸術協会新人演奏会オーディション最高位。その他全日本学生音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール等受賞多数。公益私学財団法人東京都私学財団文化・スポーツ活動賞受賞。私立鷗友学園女子高等学校を経て、東京藝術大学 2 年在学中。現在玉井菜採氏に師事。